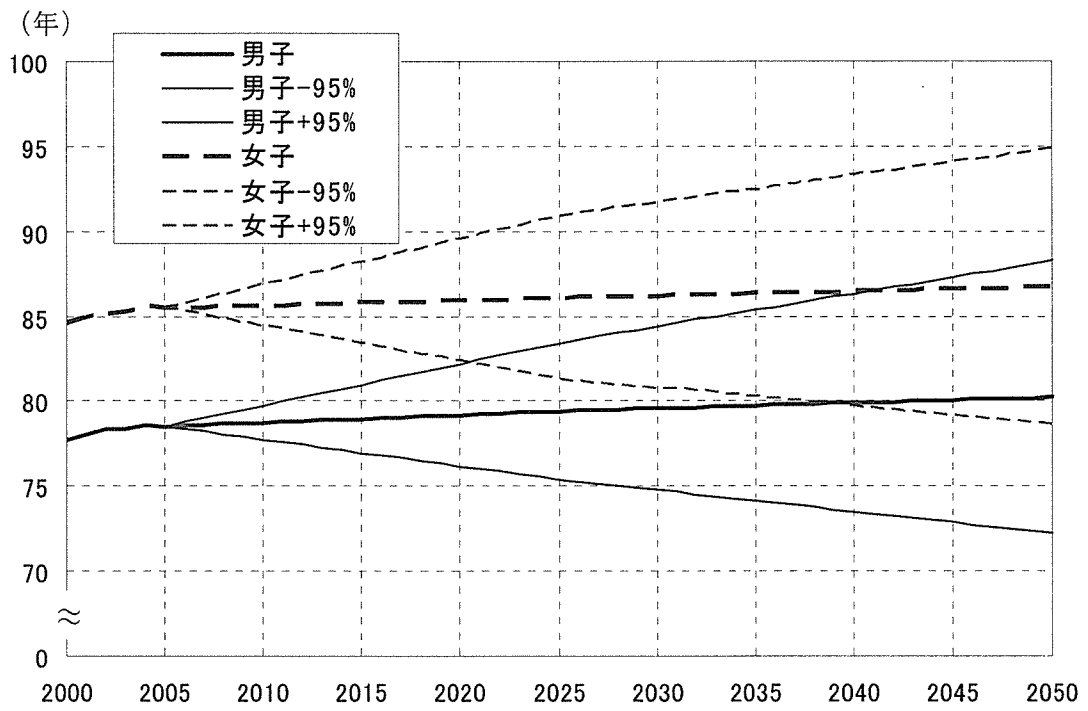
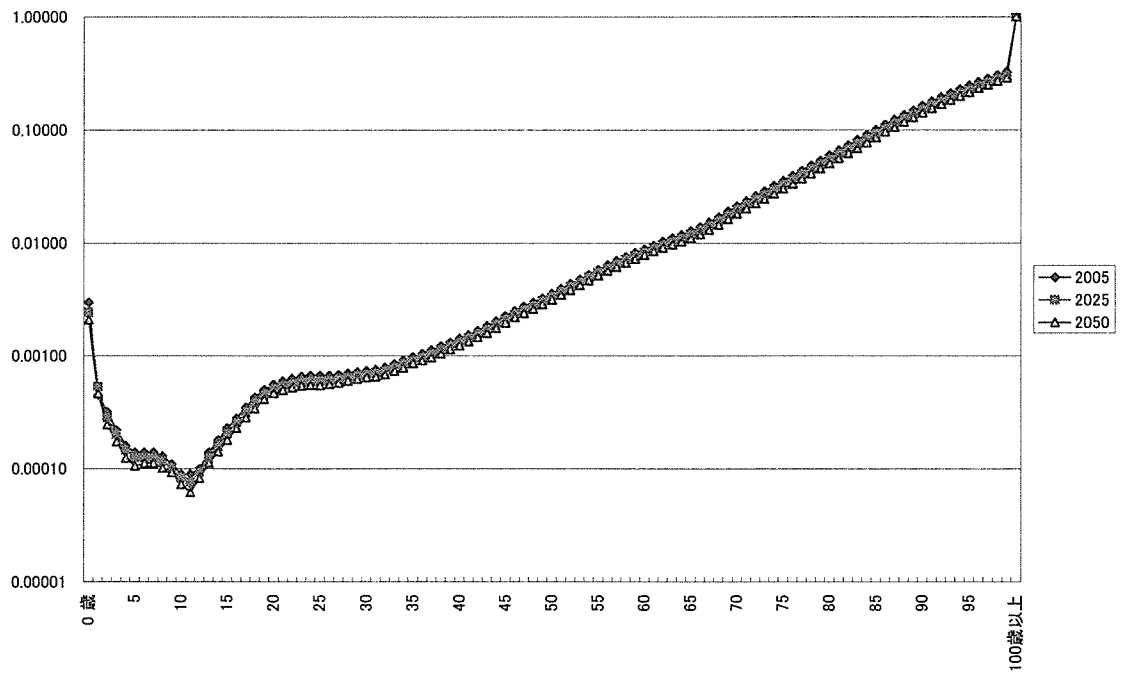


図3 有識者調査にみる平均寿命の推移予測値：2000－2050年



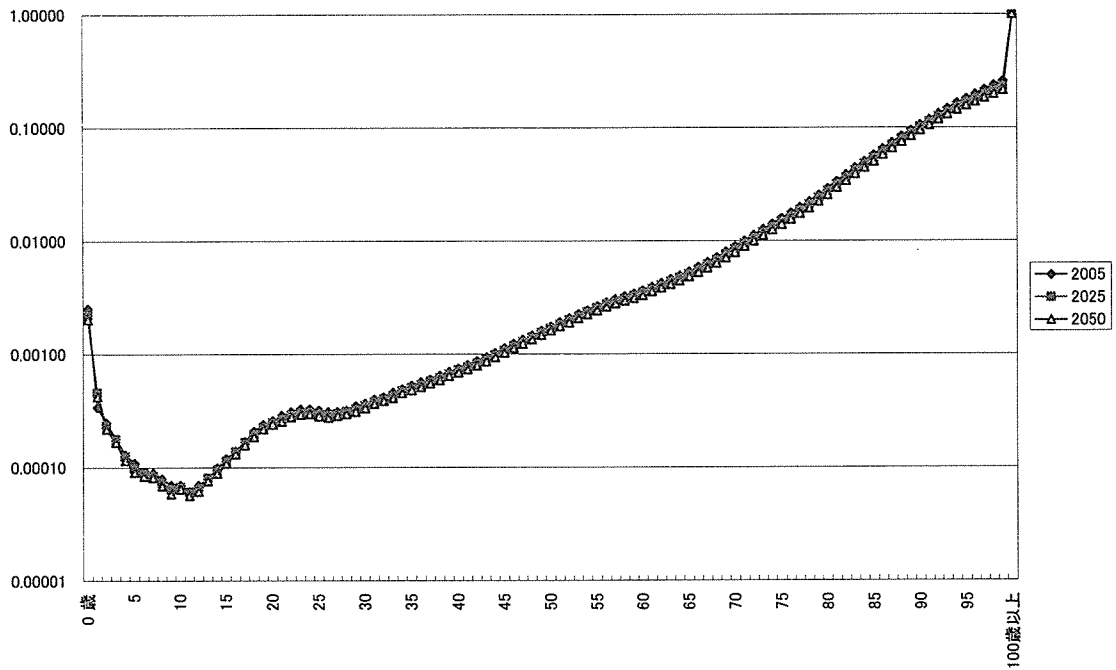
注：2000～2005年は実測値。2006年以降は少子化研究会『第2回デルファイ調査結果』の再集計より。

図4 年齢別死亡確率の推移：2005－2050年（男子）



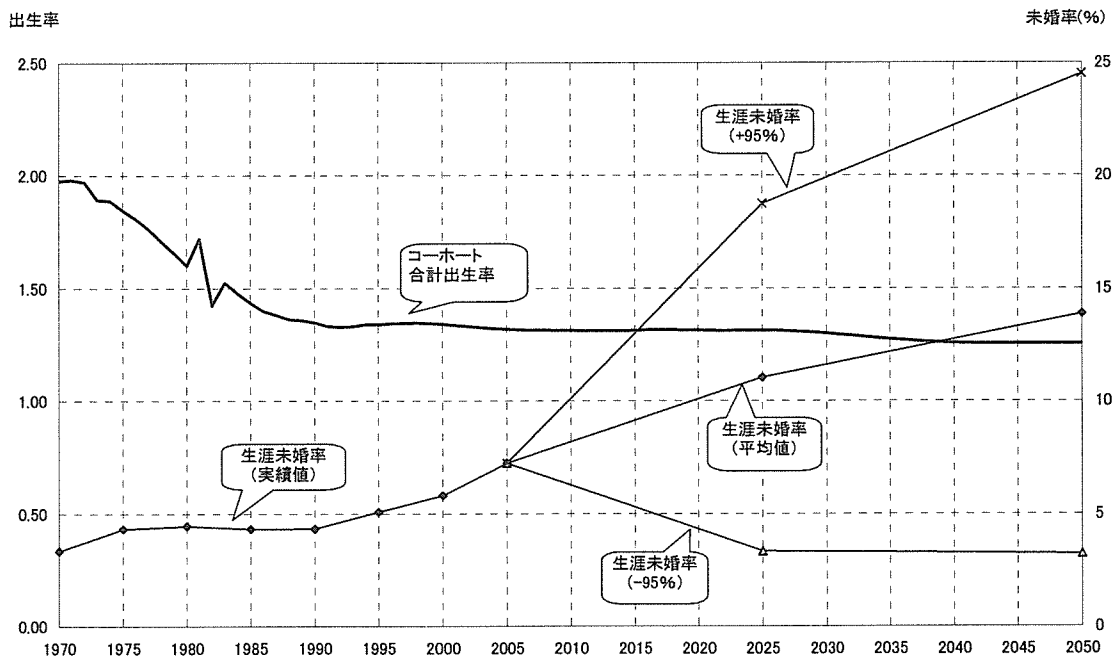
資料：厚生労働省「第20回完全生命表」、本プロジェクト「第2回有識者調査」

図5 年齢別死亡確率の推移：2005-2050年（女子）



資料：厚生労働省「第20回完全生命表」、本プロジェクト「第2回有識者調査」

図6 コーホート合計出生率と生涯未婚率の推移：1970-2050年



資料：総務省『国勢調査結果』、厚生労働省『人口動態統計』、本プロジェクト『第2回有識者調査結果』および同調査結果をもとにした筆者推計値。  
 年次は各コーホートが15歳時のもの。生涯未婚率のカッコ内の%および符号は信頼区間の水準と上下を示す。

表1 有識者調査から得られた諸指標による将来人口の試算値：2005—2050年

年次	(1,000人)		(% )			(%o)		
	人口総数	出生数	年齢別割合			自然増 加率	粗出生 率	粗死亡 率
			0-14	15-64	65+			
2005	127,768	1,081	13.76	66.07	20.16	-0.01	8.46	8.47
2006	127,767	1,058	13.66	65.52	20.83	-0.48	8.28	8.76
2007	127,706	1,033	13.54	64.97	21.50	-0.96	8.09	9.06
2008	127,583	1,007	13.42	64.47	22.10	-1.46	7.90	9.36
2009	127,396	979	13.28	64.00	22.72	-1.96	7.70	9.66
2010	127,147	952	13.12	63.81	23.07	-2.46	7.50	9.96
2011	126,834	930	12.97	63.72	23.32	-2.92	7.34	10.26
2012	126,465	909	12.79	63.05	24.16	-3.37	7.20	10.57
2013	126,039	888	12.60	62.33	25.07	-3.81	7.06	10.87
2014	125,560	868	12.41	61.62	25.96	-4.24	6.93	11.17
2015	125,028	850	12.21	61.11	26.68	-4.66	6.82	11.47
2016	124,447	832	12.01	60.72	27.27	-5.07	6.71	11.77
2017	123,818	816	11.81	60.43	27.76	-5.47	6.61	12.07
2018	123,143	800	11.62	60.22	28.16	-5.85	6.52	12.37
2019	122,424	786	11.45	60.09	28.46	-6.22	6.44	12.66
2020	121,665	773	11.29	59.96	28.75	-6.58	6.37	12.95
2025	117,351	722	10.51	59.77	29.72	-8.24	6.18	14.42
2030	112,328	688	10.09	59.14	30.76	-9.48	6.15	15.63
2035	106,880	642	9.93	57.74	32.33	-10.63	6.04	16.67
2040	101,139	584	9.85	55.18	34.97	-11.62	5.80	17.42
2045	95,285	524	9.67	53.69	36.64	-12.34	5.54	17.88
2050	89,451	475	9.37	52.80	37.83	-13.63	5.35	18.97

資料：総務省『国勢調査結果』および本プロジェクト『第2回有識者調査結果』。

## 4. デルファイ調査にみる少子化の見通しに対する専門分野別の分析 —第1回調査と第2回調査の記述統計の比較—

鎌田 健司

本報告書は、平成17年度の厚生労働科学研究費（政策科学推進研究事業：課題番号H17-政策-017）「少子化関連施策の効果と出生率の見通しに関する研究」の一環として行われた「少子化の見通しに関する有識者デルファイ調査」を用いて、専門分野別で将来の少子化の見通しに差があるのかを主たる分析目的としている。本調査は2005年11月11日（金）から12月12日（月）の期間に行われた第1回調査（発送数：1,088票，有効票：389票，有効回収率：35.8%）と2006年4月25日（火）から6月12日（月）の期間に行われた第2回調査（発送数：1,088票，最終配布数：1,051票，有効票：271票，有効回収率：25.8%）にて行われた。調査対象は、人口学，経済学，家族社会学，公衆衛生学を中心とした有識者である。

本報告書では、第1に、合計出生率や平均寿命など人口指標の予測を専門分野別に集計し、その差をみることを目的とし、第1回調査と第2回調査で収斂傾向がどの程度みられるのかを分析する。第2に、推薦する政策分野や政策項目を専門分野別にみることによって、望ましい少子化対策の可能性を探ることを目的とする。

調査票では専門分野を20項目から3つ関連の強い順に選択させている。専門分野の特定には守泉（2004）の分類を用いて各回答者に1つの専門分野を割り当てている。分類方法と結果は以下の通りである。

	【第1回】→【第2回】
① 「人口学」の該当者を全数の中から取り出す。	⇒ 94→67名
② 上記を取り除いた中から「医学・公衆衛生学」該当者を取り出す。	⇒ 81→70名
③ 上記を取り除いた中から「社会学・文化人類学」該当者を取り出す	⇒ 133→80名
④ 上記を取り除いた中から「経済学」該当者を取り出す。	⇒ 33→16名
⑤ ④までの作業を行ったあとの残りの者を「その他専門」とする。	⇒ 48→37名

### 1. 人口指標の専門分野別予測値の結果

#### 1-1. 専門分野別，合計出生率の予測（2010-2050年）

2010年の合計出生率の専門分野別の予測値（平均値）は第1回調査，第2回調査ともに1.22から1.24の間であり，専門分野別の差は0.01から0.02程度である（図1）。標準偏差も第1調査では0.07から0.09であったものが，第2回調査では0.04から0.07と回答のばらつきが少なくなっており，専門分野間にも収斂傾向がみられる。

2025年の合計出生率の専門分野別の予測値（平均値）は，第1回調査では1.19と他の専門分野より低く予測した「社会学・文化人類学」が第2回調査では1.21と若干上方修正している他は，第1回調査と第2回調査ではほぼ同様の傾向を示している（図2）。「人口学」，「経済学」，「その他」の専門分野は第2回調査で1.23から1.24と予測し，「社会学・文化人類学」，「医学，公衆衛生学」は1.21と予測している。標準偏差は第1回調査では

0.13 から 0.20 あったものが、第 2 回調査では 0.08 から 0.11 へと低下している。

2050 年の合計出生率の専門分野別の予測値（平均値）は、第 1 回調査では専門分野によってやや大きな差がみられたが、第 2 回調査では収斂傾向がみられ、1.25 あたりに落ち着くものとみられる（図 3）。第 1 回調査では、「人口学」（1.29）と「経済学」（1.31）が 1.3 あたりであると予測し、「社会学・文化人類学」が 1.2 あたりであると予測するなど専門分野別に差がみられた。標準偏差についても、第 1 回調査の 0.21 から 0.30 あたりであったものが、第 2 回調査では 0.13 から 0.23 に回答のばらつきが少なくなっている。

現在の合計出生率の低下傾向は今後も続き、2010 年まで 1.23 あたりまで落ち込むという予測は専門分野で共通するものの、2025 年と 2050 年には同水準またはやや上方傾向になると予測する「人口学」、「経済学」と、2025 年まで低下傾向が続き、2050 年にはやや上昇すると予測する「医学・公衆衛生学」、「社会学・文化人類学」とで差がみられた（図 4）。

### 1-2. 専門分野別、平均寿命の予測（2025-2050 年）

2025 年の男性の平均寿命の予測値（平均値）は、第 1 回調査では 79 歳から 80 歳までの間で推移しており、第 2 回調査では「その他」の専門家が 78.9 歳と下方修正した他は第 1 回調査と同様の傾向を予測している（図 5）。

2050 年の男性の平均寿命の予測値（平均値）は、第 2 回調査時点で 81 歳程度と予測する「人口学」、「経済学」と 80 歳程度と予測する「医学・公衆衛生学」、「社会学・文化人類学」の間で差がみられた（図 6）。この差は第 1 回調査においてもみられ、専門分野全体の収斂傾向はみられなかった。

2025 年の女性の平均寿命の予測値（平均値）は、第 1 回調査では 86 年から 87 年であったものが、第 2 回調査では 86 年あたりに収斂した（図 7）。第 1 回、第 2 回とも「人口学」だけが高めに予測している（第 1 回：87.3 年、第 2 回：86.7 年）ものの、その他の専門分野における差はさほどみられない。

2050 年の女性の平均寿命の予測値（平均値）は、87 年から 88 年と予測する「人口学」、「経済学」と、86 年程度と予測するその他の専門分野で男性の平均寿命と同様、やや差がみられた（図 8）。

平均寿命の予測について、男女ともに今後も延び続けるという点では専門家に共通しており、高めに予測する「人口学」、「経済学」とやや高めに予測する「医学・公衆衛生学」、「社会学・文化人類学」で予測値の違いがみられた（図 9）。

### 1-3. 専門分野別、生涯未婚率の予測（2025-2050 年）

2025 年の男性の生涯未婚率の予測値（平均値）は、第 1 回調査では「人口学」が 17.1%、「医学・公衆衛生学」が 15%、その他の専門家は 16%程度と予測していたものが、第 2 回調査では「人口学」が同水準の 17.4%、「経済学」が大きく上方修正した 18.1%とした以外は第 1 回と同様に 16%前後であると予測している（図 10）。

2050 年の男性の生涯未婚率の予測値（平均値）は、2025 年と同様「人口学」が 20.5%から 20.0%と同水準、「経済学」が大きく上方修正した 18.6%から 21.3%以外は 18%前後であると予測している（図 11）。

2025年の女性の生涯未婚率の予測値（平均値）は、第1回調査では「人口学」10.5%と他の専門分野（9%前後）に比べてやや高く予測していたが、第2回調査では全ての専門分野で上方修正がなされ、上昇幅の大きい「経済学」が12.4%であり、「人口学」はやや高めの11.9%、その他は10%程度まで上昇すると予測している（図12）。

2050年の女性の生涯未婚率の予測値（平均値）は、第1回調査時点において専門分野で差がみられ、10.5%の「医学・公衆衛生学」から14%の「人口学」まで大きなばらつきがみられた。第2回調査ではやや収斂傾向がみられるものの、依然として専門分野の差がみられる結果となった（図13）。

生涯未婚率に関して、男女ともに今後も上昇するであろうという予測は共通している。ただし、その水準については専門分野によってやや異なり、合計出生率や平均寿命と同様に「人口学」、「経済学」と「医学・公衆衛生学」、「社会学・文化人類学」で予測が分かれた（図14）。

#### 1-4. 専門分野別、女性の初婚年齢の予測（2025-2050年）

2025年の女性の平均初婚年齢の予測値（平均値）は、第1回調査において29歳前半で専門家は共通している（図15）。第2回調査においては若干上方修正はなされ、専門分野間でばらつきがみてとれるものの29歳という予測はほぼ共通している。

2050年の女性の平均初婚年齢の予測値（平均値）は、第1回調査において29歳後半で多くの専門家が共通している（図16）。しかし第2回調査では「経済学」が30歳前半まで上昇すると予測するのに対して、その他の専門家は第1回調査時点と同様の水準であると予測している。

女性の平均初婚年齢の予測の収斂傾向については、やや上方修正の傾向である。2025年については専門分野でばらつきがあり、2050年では経済学が上方修正し、「その他」が下方修正し、その他の専門群はやや上方修正もしくは現状維持である（図17）。

## 2. 20年後の結婚行動・出生行動の予想

### 2-1. 結婚する男女が持つ子ども数の推移

結婚する男女が持つ子ども数の推移について、これから20年くらいの動向は「減少する」と回答したのは専門分野を問わず6割程度となっており、「現状と変わらない」は3割、「増加する」は1割以下であった（図18）。第1回調査と第2回調査では「減少する」が各専門分野若干の上方傾向にあり（「経済学」は大幅上方修正）、第1回で「増加する」と回答したケースが減少している。

「減少する」場合の内訳割合については、「二人以上持つ夫婦が減り、一人っ子を持つ夫婦が増える」と回答したものが、6割程度を占め、「子どもを持たない夫婦が増える」と回答したのは4割程度であった（図19）。専門分野別にみると、「社会学・文化人類学」が「二人以上持つ夫婦が減り、一人っ子を持つ夫婦が増える」が7割とウェイトが高く、「経済学」は両選択肢に対し半々であり、その他は前者6割、後者4割と回答している。

## 2-2. 同棲経験のある未婚者の割合の動向

同棲経験のある未婚者の割合の動向については、7割から9割の専門家が「上昇する」と回答している。「現状と変わらない」は2割程度であり、「低下する」は1~2%に過ぎない。専門分野別にみても、大勢は変わらず「上昇する」という見解で一致している(図20)。

「上昇する」場合の程度については、16%から18%との回答で分布している(図21)。専門分野では、第2回調査にて「医学・公衆衛生学」、「経済学」がやや上方修正を行っており、その他の専門分野は若干の修正に留まっている。

## 2-3. 婚外子割合の動向

婚外子割合の動向については、おおむね7割から8割が「上昇する」と回答している(図22)。「現状と変わらない」が3割程度を占め、「低下する」という回答はほぼみられなかった。専門分野の動向では、「経済学」が第1回調査で「上昇する」が5割、「現状と変わらない」が4割であったのが、第2回調査で「上昇する」が9割となった以外の専門家は共通する見解をもっている。

「上昇する」場合の程度については、同棲経験のある未婚者の割合と同様「医学・公衆衛生学」、「経済学」がやや大きめの上方修正を行っているほかは、5%から6%で一致する(図23)。

## 2-4. 離婚率の動向

離婚率の動向については、第2回調査において9割の専門家が「上昇する」と回答している(図24)。第1回調査では「人口学」のみが「上昇する」を7割、「現状と変わらない」を2割弱とした以外は、専門家の意見は一致している。

「上昇する」場合の程度については、第1回調査において5.2%から6.7%であった専門分野間の差が、6.5%から7.1%へと上方修正しおおよそ収斂している(図25)。「医学・公衆衛生学」、「社会学・文化人類学」、「経済学」の第2回での修正幅が大きい。

## 2-5. 再婚率の動向

再婚率の動向については、第2回調査において8割の専門家が「上昇する」と回答している。「現状と変わらない」が2割程度であり、「低下する」はほぼみられない(図26)。

「上昇する」場合の程度については、第2回調査において「その他」の専門分野を除く専門家が上方修正をしており、4.3%から4.9%まで上昇すると回答している。

20年後の結婚行動・出生行動の予想は、人口指標の予測における2025年あたりと同様に専門分野間の差はさほどみられなかった。結婚する男女が持つ子どもの数以外の指標については、北西欧諸国の水準までいかずとも、それぞれ上昇すると回答されており、子ども数(出生率)は減少するが、パートナーシップは多様化するという予想がみてとれる結果となっている。

### 3. 推奨する少子化対策

#### 3-1. 最も力を入れるべき少子化対策の分野

最も力を入れるべき少子化対策の分野として、「児童福祉」、「労働・雇用」、「教育」、「社会保障」、「税制」、「その他」の6つについて1つだけ回答する質問項目となっている。その第1回調査の結果が表1であり、第2回調査の結果は表2となっている。

第1回調査においては、優先順位で見た場合「労働・雇用」分野が全ての専門家で一致しているが、その割合は専門分野別に異なっている。「人口学」は次点に「税制」、続いて「児童福祉」、「社会保障」と回答し、「医学・公衆衛生学」は次点に「教育」、続いて「児童・福祉」と回答、「社会学・文化人類学」は次点に「児童福祉」、続いて「社会保障」と回答、「経済学」は次点に「教育」、「社会保障」、続いて「児童福祉」などそれぞれ異なる傾向を示している。

第2回調査においては、「労働・雇用」を選択する割合が第1回目よりも増え、5割から7割となっている。それぞれの専門家の次点については、「医学・公衆衛生学」で依然として「教育」に最も力を入れるべきであると回答する特色が見られるものの、度数の大きさからみて、ほぼ「労働・雇用」へ収斂していることがみてとれる。

#### 3-2. 少子化対策として推奨する政策

少子化対策として推奨する政策については、「児童福祉」、「働き方」、「教育」、「税・社会保障」の4分野からそれぞれ3つ回答したものから、各専門分野を分母とした場合の各政策項目を選択した数を分子とし、選択率として集計したものの上位3位までを色づけしたものが表3（第1回結果）と表4（第2回結果）である。以下は第2回調査結果をもとに記述している。

「児童福祉」分野では、「保育所増設」が「人口学」、「医学・公衆衛生学」、「社会学・文化人類学」及び全体で選択率が最も高くなっている。「経済学」、「その他」で最も選択率が高い政策項目は「学童保育拡大」であり、これはその他の専門分野においても高い選択率となっている。その他では、「一時預かり保育推進」、「児童手当増額」、で選択率が高い。

「働き方」分野では、「女性再就職支援」が「人口学」、「経済学」、「その他」及び全体で選択率が高くなっている。「医学・公衆衛生学」、「社会学・文化人類学」では「育休制度拡充」が最も高い選択率となっており、他の専門分野においても選択率が高くなっている。その他では、「短時間社員制導入」で選択率が高くなっている。

「教育」分野では、「奨学金制度充実」が「人口学」、「経済学」、「その他」および全体で選択率が最も高くなっている。「医学・公衆衛生学」は「子育て理解教育」、「社会学・文化人類学」は「男女共同参画教育」が最も高い選択率となっている。

「税・社会保障」分野では、「乳幼児医療費無料化」が「人口学」、「医学・公衆衛生学」、「社会学・文化人類学」、「その他」および全体で選択率が最も高くなっている。「経済学」は「103万円の壁」が最も選択率が高い。その他では、「130万円の壁」の選択率が高くなっている。



図 1-3 専門分野別，合計出生率の収斂傾向（第 1 回と第 2 回の比較，2010-2050 年）

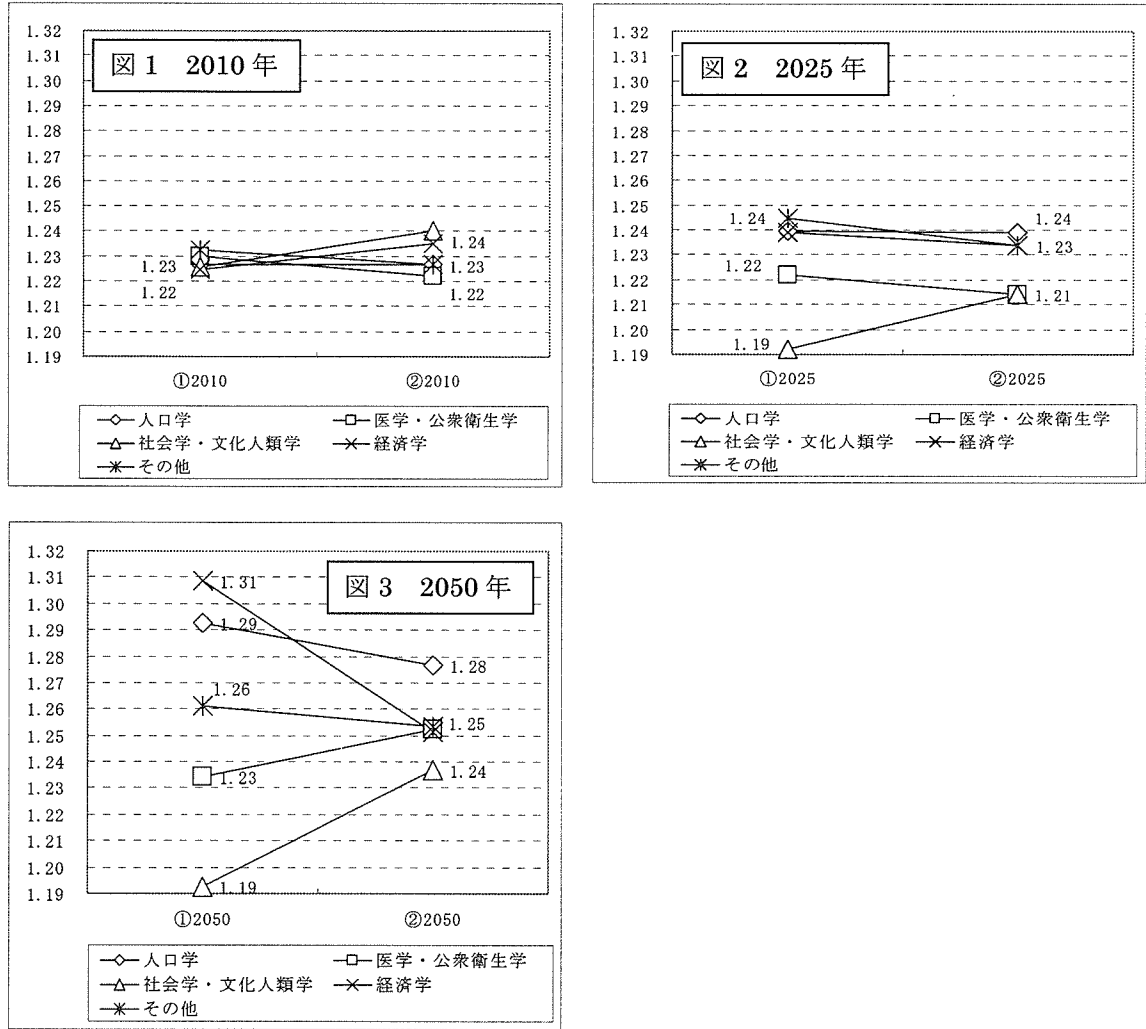


図 4 専門分野別，合計出生率の推移（2010-2050 年，第 2 回調査結果）

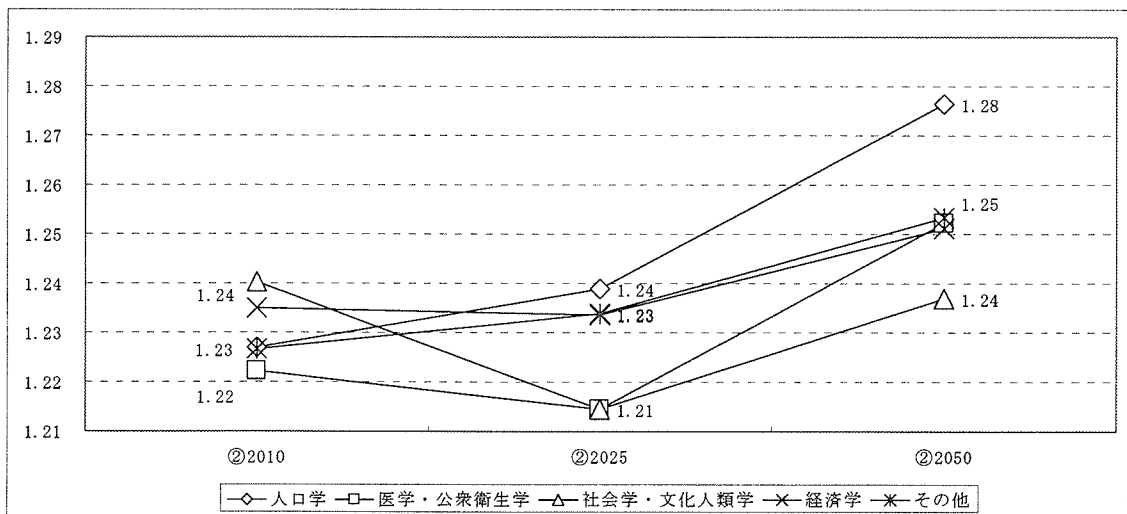


図 5-6 専門分野別、男性の平均寿命の収斂傾向（第 1 回と第 2 回の比較、2025-2050 年）

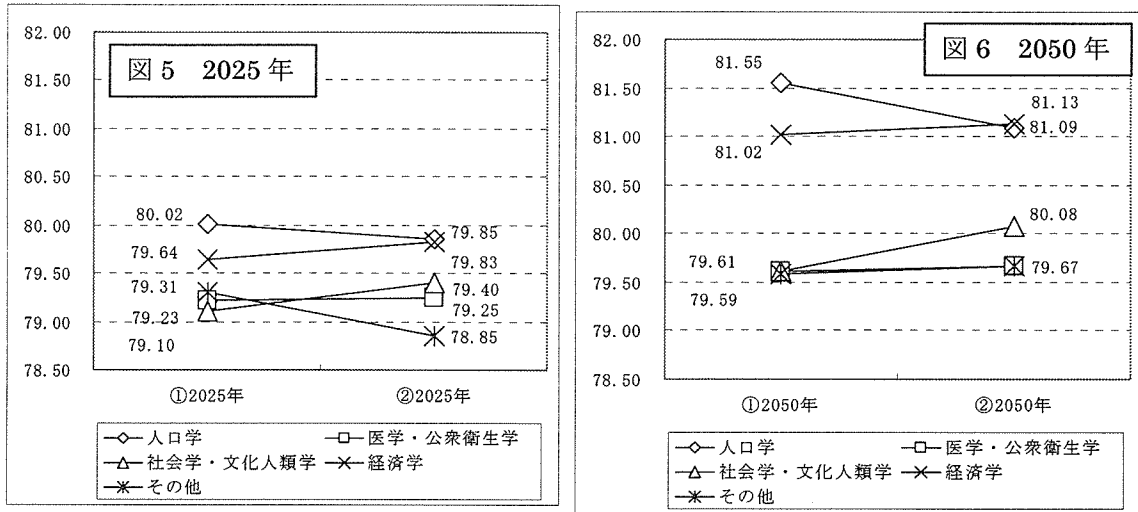


図 7-8 専門分野別、女性の平均寿命の収斂傾向（第 1 回と第 2 回の比較、2025-2050 年）

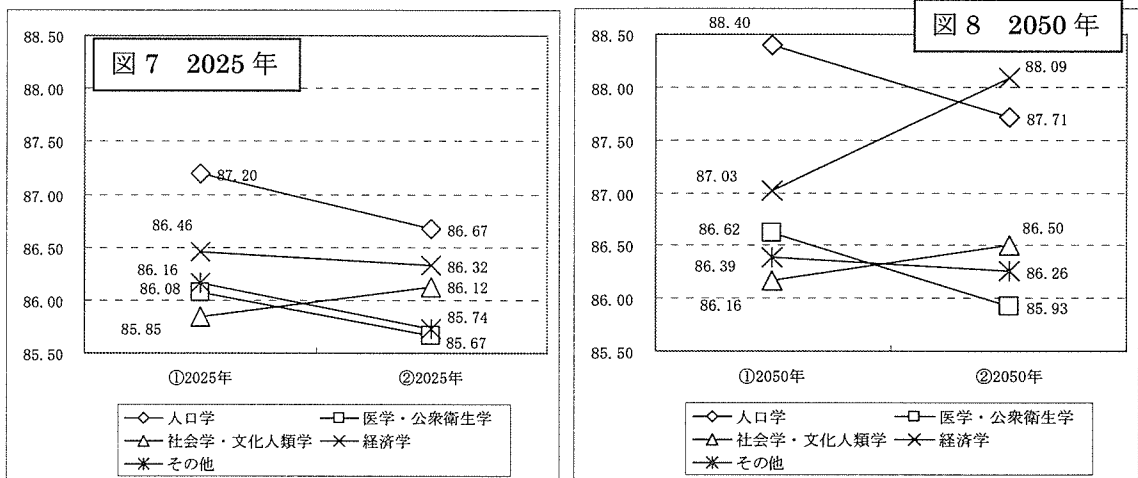


図 9 専門分野別、平均寿命の推移（2025-2050 年、第 2 回結果）

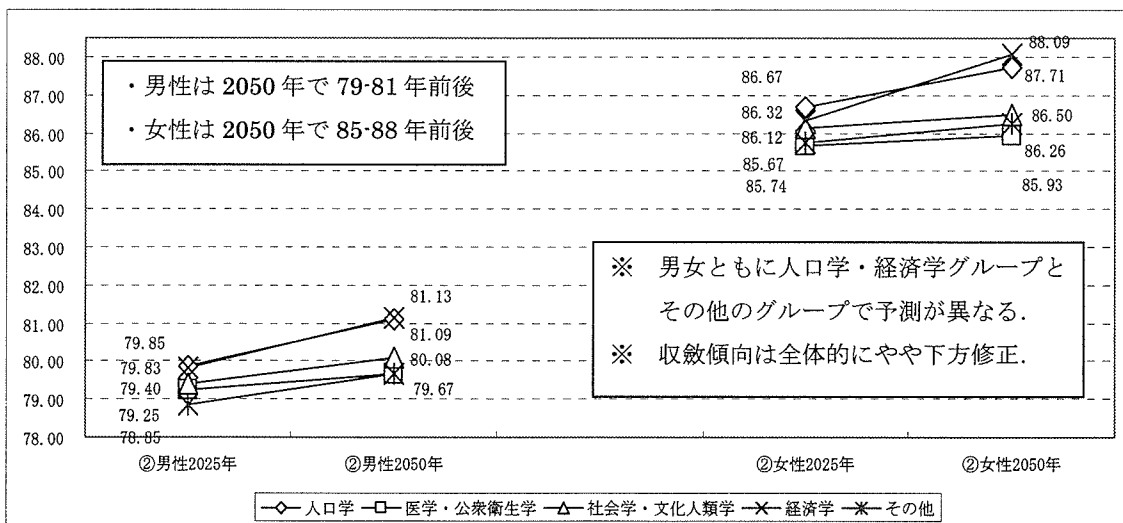


図 10-11 専門分野別、男性の生涯未婚率の収斂傾向（第 1 回と第 2 回の比較，2025-2050 年）

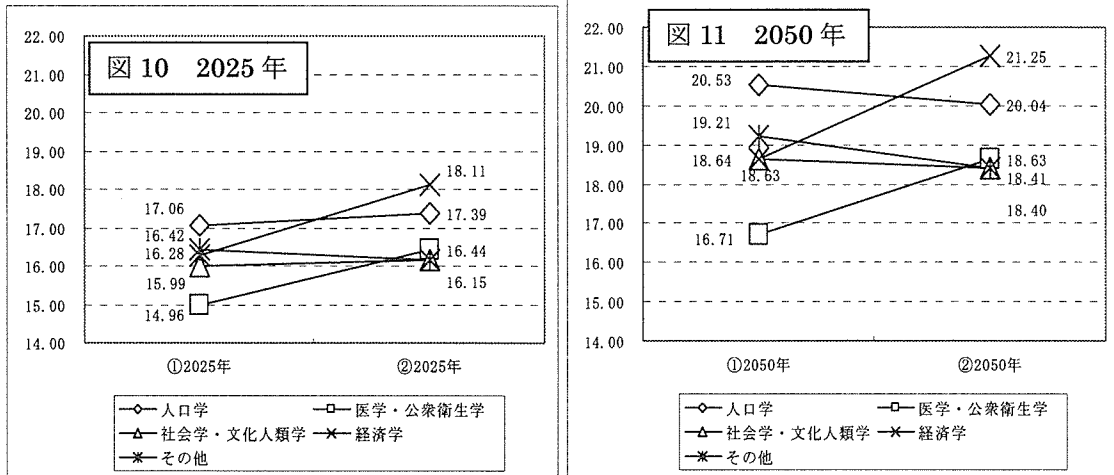


図 12-13 専門分野別、女性の生涯未婚率の収斂傾向（第 1 回と第 2 回の比較，2025-2050 年）

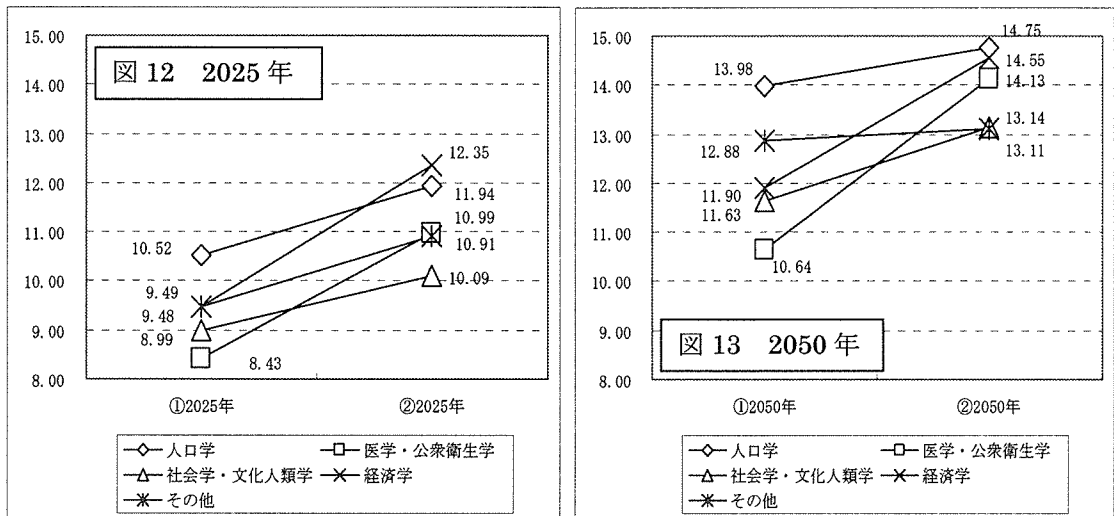


図 14 専門分野別、生涯未婚率の推移（2025-2050 年，第 2 回結果）

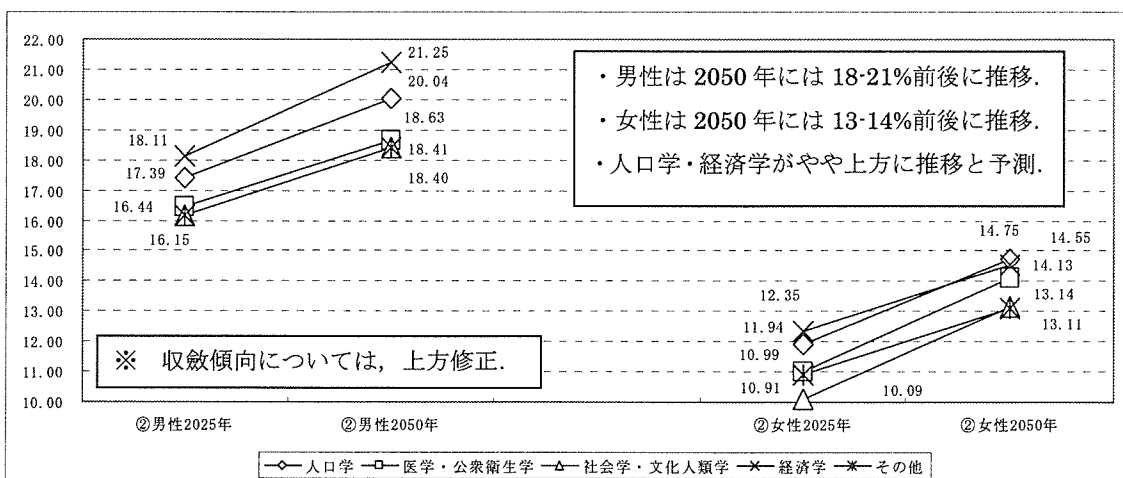


図 15-16 専門分野別，女性の平均初婚年齢の収斂傾向（第 1 回と第 2 回の比較）

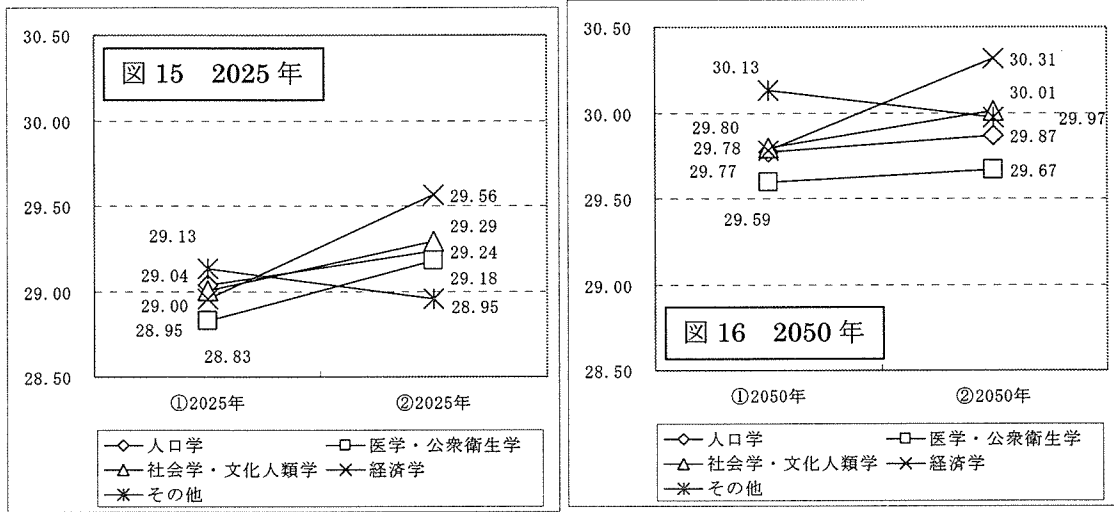


図 17 専門分野別，女性の平均初婚年齢の推移（2025-2050年，第 2 回結果）

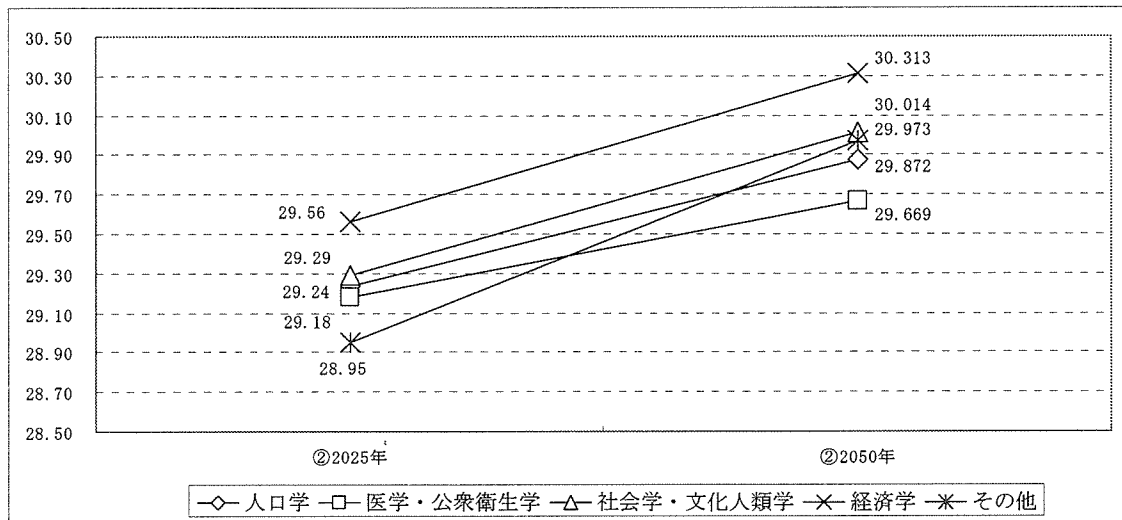


図 18 専門分野別，結婚した男女が持つ子どもの数の動向（第 1 回と第 2 回の比較，%）

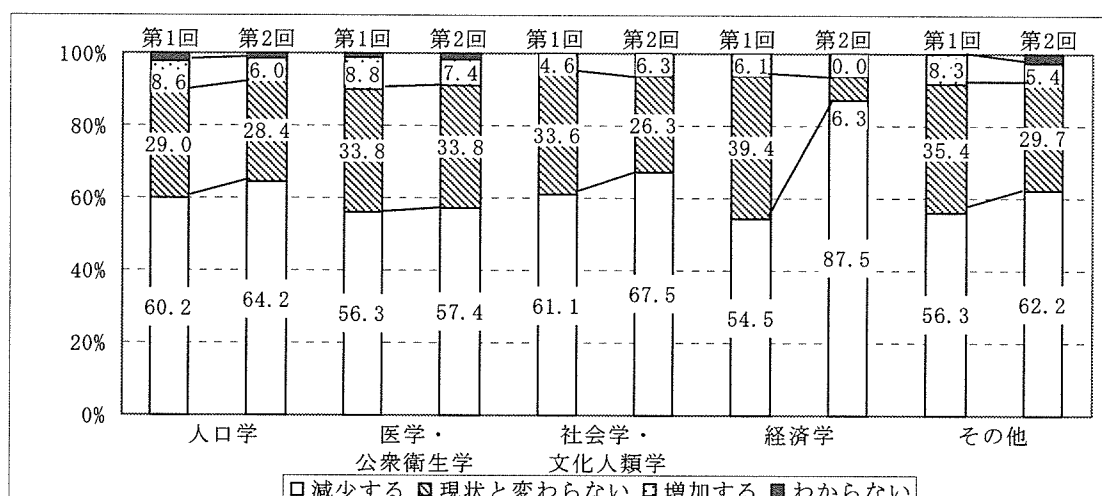


図 19 専門分野別，結婚した男女が持つ子どもの数の減少の内訳（第 1 回と第 2 回の比較，%）

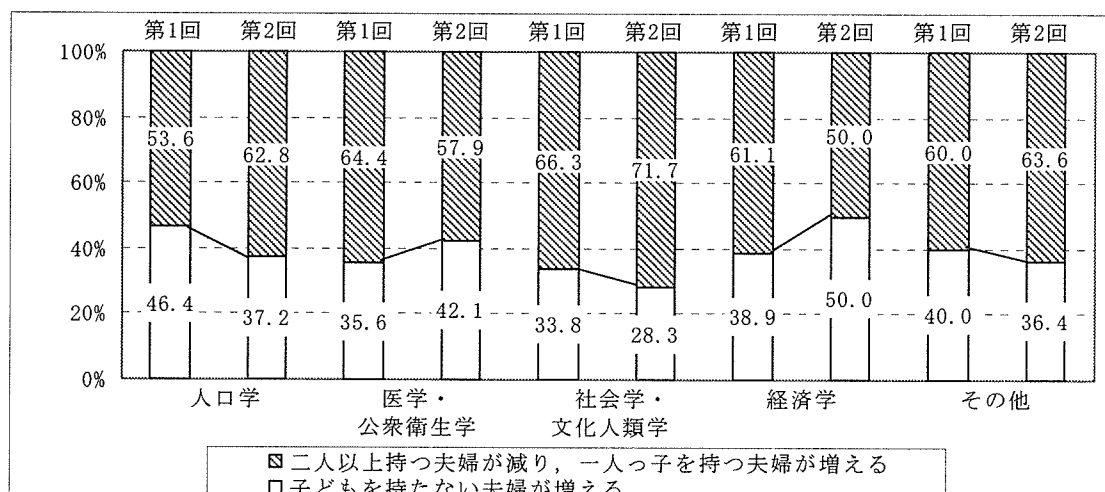


図 20 専門分野別，同棲経験割合の動向（第 1 回と第 2 回の比較，%）

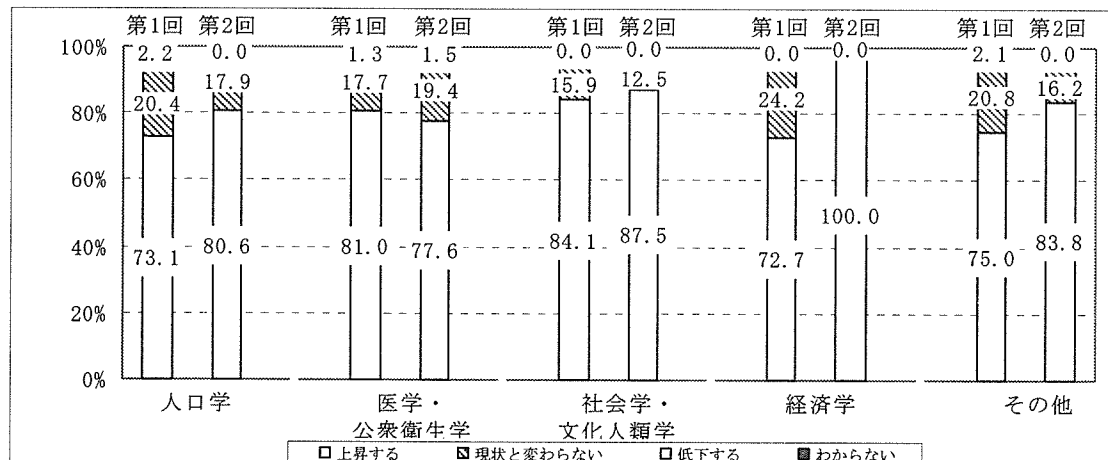


図 21 専門分野別、同棲経験割合の上昇の程度（第1回と第2回の比較、平均値）

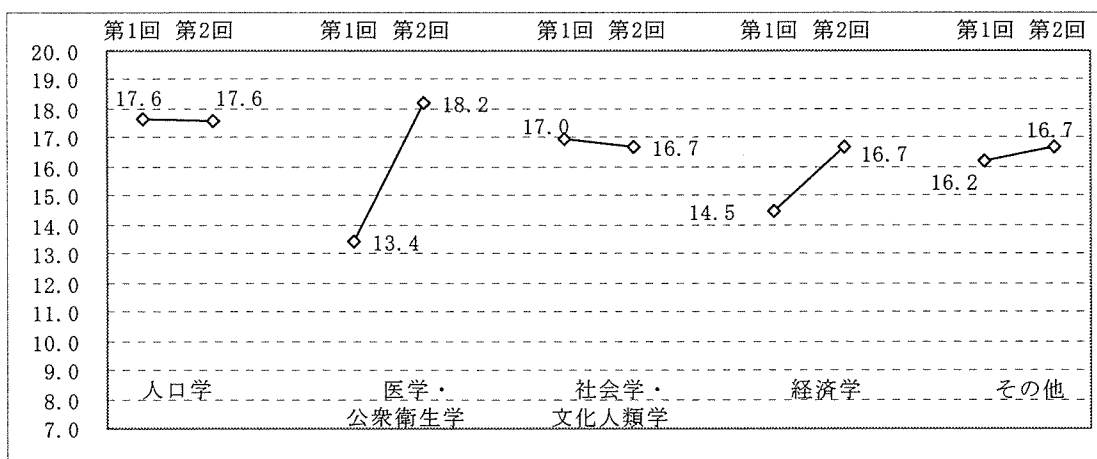


図 22 専門分野別、婚外子の動向（第1回と第2回の比較、%）

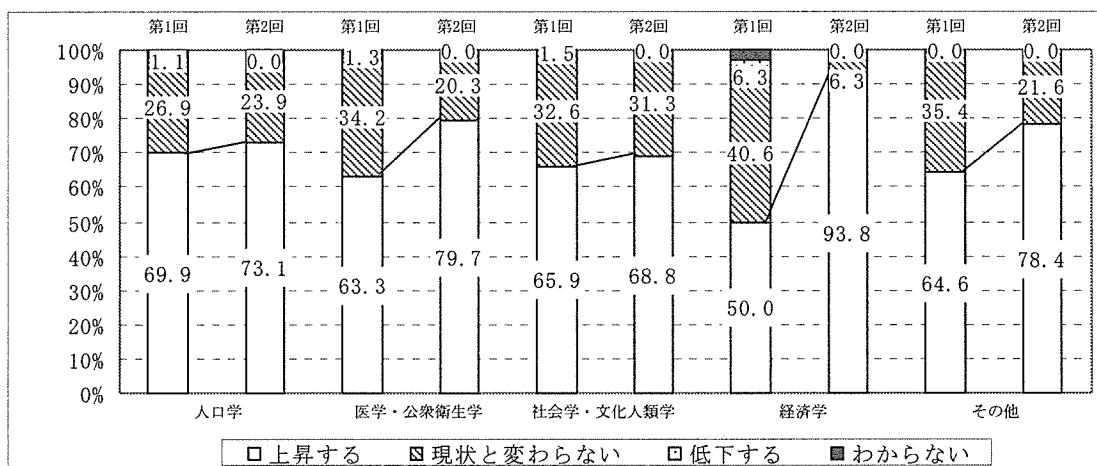


図 23 専門分野別、婚外子の動向と上昇の程度（第1回と第2回の比較、平均値）

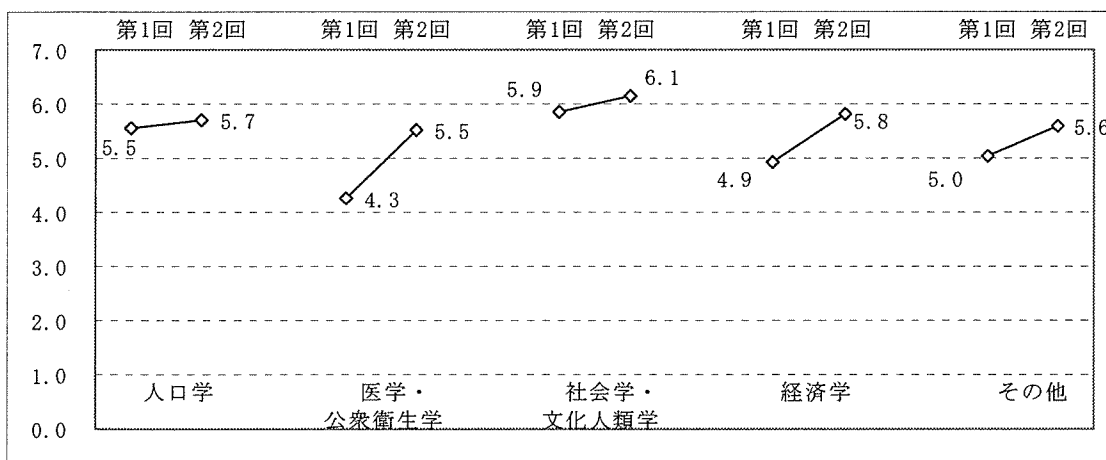


図 24 専門分野別，離婚率の動向（第 1 回と第 2 回の比較，%）

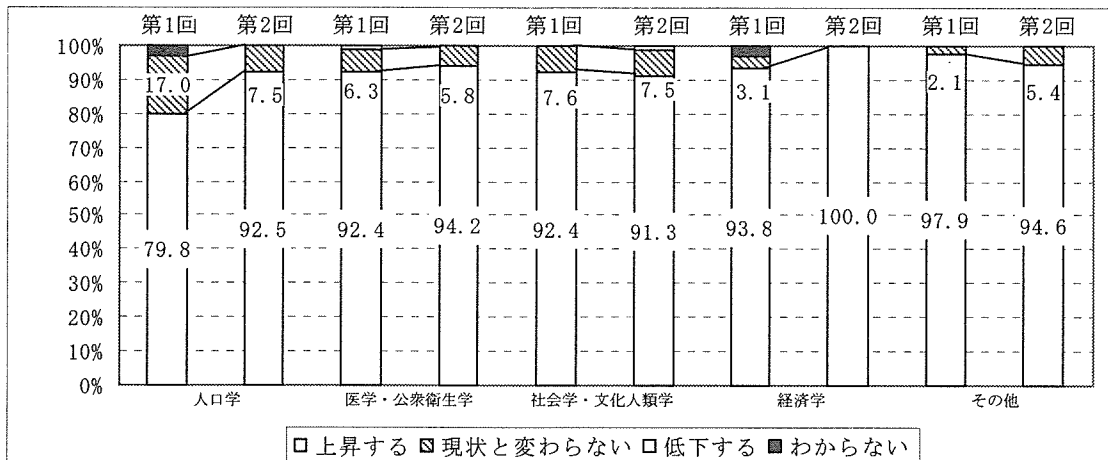


図 25 専門分野別，離婚率の上昇の程度（第 1 回と第 2 回の比較，平均値）

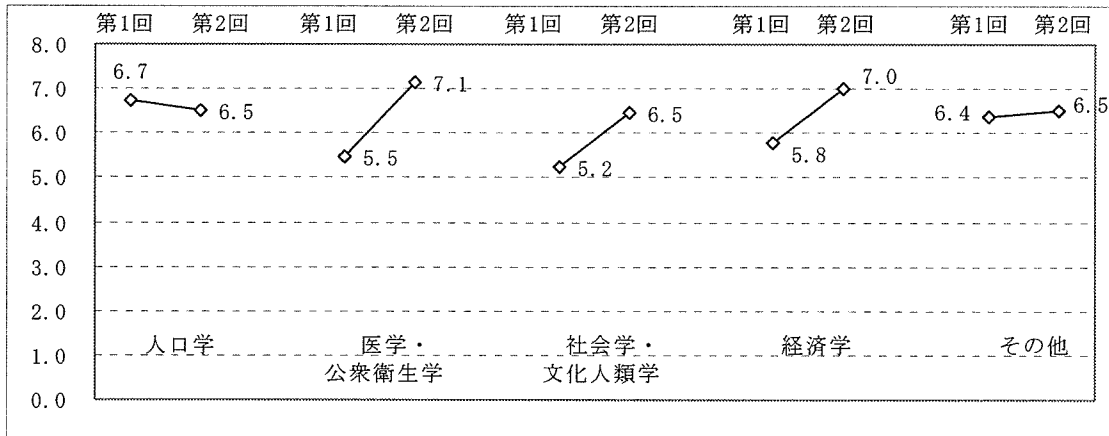


図 26 専門分野別，再婚率の動向（第 1 回と第 2 回の比較，%）

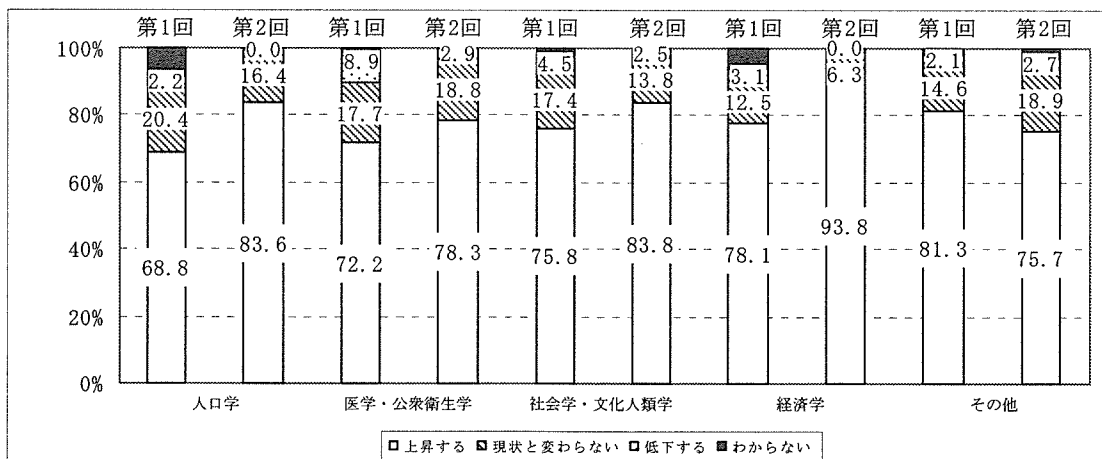


図 27 専門分野別，再婚率の上昇の程度（第 1 回と第 2 回の比較，平均値）

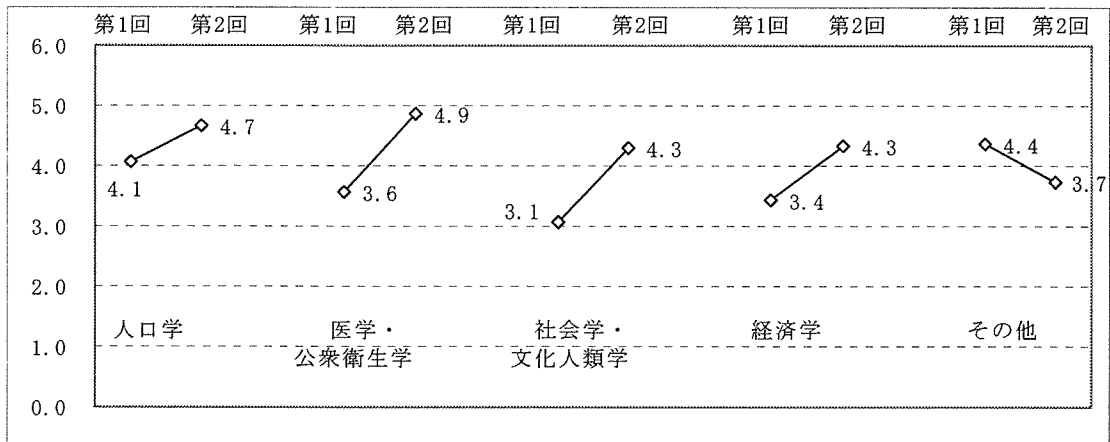


表 1 専門分野別，最も力を入れるべき少子化対策の分野（第 1 回調査結果）

デルファイ第1回	人口学(N=91)	医学・公衆衛生学(N=78)	社会学・文化人類学(N=133)	経済学(N=33)	その他(N=44)	全体
児童福祉	10 11.0%	13 16.7%	21 15.8%	3 9.1%	4 9.1%	13.5%
労働・雇用	43 47.3%	27 34.6%	65 48.9%	18 54.5%	21 47.7%	45.9%
教育	8 8.8%	18 23.1%	16 12.0%	4 12.1%	6 13.6%	13.7%
社会保障	10 11.0%	8 10.3%	19 14.3%	4 12.1%	7 15.9%	12.7%
税制	11 12.1%	7 9.0%	5 3.8%	2 6.1%	3 6.8%	7.4%
その他	9 9.9%	5 6.4%	7 5.3%	2 6.1%	3 6.8%	6.9%
※色分けの内訳	最大	2番目	3番目			

表 2 専門分野別，最も力を入れるべき少子化対策の分野（第 2 回調査結果）

デルファイ第2回	人口学(N=66)	医学・公衆衛生学(N=70)	社会学・文化人類学(N=80)	経済学(N=16)	その他(N=34)	全体
児童福祉	10 15.2%	5 7.1%	3 3.8%	2 12.5%	3 8.8%	8.6%
労働・雇用	43 65.2%	37 52.9%	60 75.0%	11 68.8%	20 58.8%	64.3%
教育	4 6.1%	13 18.6%	6 7.5%	0 0.0%	7 20.6%	11.3%
社会保障	3 4.5%	9 12.9%	4 5.0%	2 12.5%	3 8.8%	7.9%
税制	4 6.1%	4 5.7%	5 6.3%	1 6.3%	1 2.9%	5.6%
その他	2 3.0%	2 2.9%	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	2.3%
※色分けの内訳	最大	2番目	3番目			



表 3 専門分野別，少子化対策として推奨する政策の分布：優先順位別（第1回結果）

デルファイ第1回		人口学 (N=94)		医学・公衆衛生 学(N=81)		社会学・文化人 類学(N=133)		経済学 (N=33)		その他 (N=48)		全体
		度数	選択率	度数	選択率	度数	選択率	度数	選択率	度数	選択率	選択率
児童福祉	保育所増設	45	47.9%	51	63.0%	71	53.4%	12	36.4%	24	50.0%	52.2%
	幼保一元化推進	29	30.9%	11	13.6%	26	19.5%	11	33.3%	13	27.1%	23.1%
	一時預かり保育推進	31	33.0%	30	37.0%	42	31.6%	12	36.4%	13	27.1%	32.9%
	児童手当期間延長	28	29.8%	21	25.9%	39	29.3%	9	27.3%	16	33.3%	29.0%
	児童手当増額	31	33.0%	32	39.5%	59	44.4%	8	24.2%	16	33.3%	37.5%
	病後児保育推進	17	18.1%	28	34.6%	36	27.1%	8	24.2%	14	29.2%	26.5%
	学童保育拡大	42	44.7%	25	30.9%	73	54.9%	12	36.4%	24	50.0%	45.2%
	民間保育振興	32	34.0%	23	28.4%	24	18.0%	15	45.5%	11	22.9%	27.0%
	その他	1	1.1%	1	1.2%	11	8.3%	3	9.1%	4	8.3%	5.1%
働き方	企業行動計画義務化	20	21.3%	14	17.3%	34	25.6%	5	15.2%	8	16.7%	20.8%
	育休制度拡充	44	46.3%	39	48.1%	50	37.6%	16	48.5%	22	45.8%	44.0%
	在宅勤務制度普及	22	23.4%	26	32.1%	26	19.5%	11	33.3%	8	16.7%	23.9%
	パート労働者均等処遇	27	28.7%	18	22.2%	42	31.6%	9	27.3%	13	27.1%	28.0%
	フレックスタイム制導入	30	31.9%	31	38.3%	32	24.1%	11	33.3%	10	20.8%	29.3%
	短時間社員制導入	31	33.0%	24	29.6%	65	48.9%	15	45.5%	16	33.3%	38.8%
	ワーカー・ノート就業支援	12	12.8%	16	19.8%	24	18.0%	4	12.1%	11	22.9%	17.2%
	女性再就職支援	50	53.2%	44	54.3%	59	44.4%	13	39.4%	27	56.3%	49.6%
	男性育休取得促進	25	26.6%	20	24.7%	50	37.6%	8	24.2%	19	39.6%	31.4%
	その他	2	2.1%	0	0.0%	6	4.5%	0	0.0%	2	4.2%	2.6%
教育	大学学費本人負担	29	30.9%	11	13.6%	35	26.3%	8	24.2%	9	18.8%	23.7%
	奨学金制度充実	48	51.1%	24	29.6%	69	51.9%	20	60.6%	25	52.1%	47.8%
	子育て理解教育	35	37.2%	49	49.4%	44	33.1%	8	24.2%	22	45.8%	38.3%
	乳幼児とのふれあい	22	23.4%	29	35.8%	56	42.1%	6	18.2%	16	33.3%	33.2%
	男女共同参画教育	31	33.0%	37	45.7%	73	54.9%	16	48.5%	20	41.7%	45.5%
	性・妊娠出産教育	30	31.9%	45	55.6%	34	25.6%	2	6.1%	13	27.1%	31.9%
	人口学教育	30	31.9%	20	24.7%	13	9.8%	5	15.2%	7	14.6%	19.3%
その他	4	4.3%	3	3.7%	12	9.0%	5	15.2%	6	12.5%	7.7%	
税・社会保障	103万円の壁	38	40.4%	33	40.7%	62	46.6%	18	54.5%	17	35.4%	43.2%
	130万円の壁	39	41.3%	25	30.9%	63	47.4%	20	60.6%	16	33.3%	41.9%
	育児保険創設	24	25.5%	34	42.0%	50	37.6%	9	27.3%	13	27.1%	33.4%
	N分N乗方式導入	16	17.0%	3	3.7%	14	10.5%	3	9.1%	6	12.5%	10.8%
	ファミレ企業優遇税制	29	30.9%	17	21.0%	54	40.6%	9	27.3%	23	47.9%	33.9%
	乳幼児医療費無料化	44	46.8%	49	60.5%	53	39.8%	8	24.2%	25	52.1%	46.0%
	独身税創設	20	21.3%	23	28.4%	15	11.3%	6	18.2%	13	27.1%	19.8%
	公営住宅充実	16	17.0%	20	24.7%	32	24.1%	5	15.2%	6	12.5%	20.3%
その他	2	2.1%	2	2.5%	6	4.5%	2	6.1%	2	4.2%	3.6%	

※ 色分けの内訳 最大 2番目 3番目

表4 専門分野別，少子化対策として推奨する政策の分布：優先順位別（第2回結果）

デルファイ第2回		人口学 (N=67)	医学・公衆衛生 学(N=70)	社会学・文化人 類学(N=80)	経済学 (N=16)	その他 (N=37)	全体
		度数 選択率	度数 選択率	度数 選択率	度数 選択率	度数 選択率	選択率
児童福祉	保育所増設	42 62.7%	41 58.6%	52 65.0%	6 37.5%	20 54.1%	59.6%
	幼保一元化推進	15 22.4%	13 18.6%	14 17.5%	7 43.8%	7 18.9%	20.7%
	一時預かり保育推進	26 38.8%	30 42.9%	22 27.5%	5 31.3%	16 43.2%	36.7%
	児童手当期間延長	16 23.9%	9 12.9%	27 33.8%	4 25.0%	14 37.8%	25.9%
	児童手当増額	25 37.3%	23 32.9%	34 42.5%	5 31.3%	13 35.1%	37.0%
	病後児保育推進	11 16.4%	18 25.7%	16 20.0%	0 0.0%	6 16.2%	18.9%
	学童保育拡大	35 52.2%	36 51.4%	47 58.8%	11 68.8%	22 59.5%	55.9%
	民間保育振興	16 23.9%	21 30.0%	12 15.0%	6 37.5%	3 8.1%	21.5%
	その他	5 7.5%	3 4.3%	3 3.8%	1 6.3%	2 5.4%	5.2%
働き方	企業行動計画義務化	17 25.4%	15 21.4%	15 18.8%	2 12.5%	7 18.9%	20.7%
	育休制度拡充	36 53.7%	37 52.9%	43 53.8%	8 50.0%	16 43.2%	51.9%
	在宅勤務制度普及	12 17.9%	20 28.6%	13 16.3%	3 18.8%	3 8.1%	18.9%
	パート労働者均衡処遇	18 26.9%	18 25.7%	25 31.3%	3 18.8%	9 24.3%	27.0%
	フレックスタイム制導入	14 20.9%	29 41.4%	22 27.5%	3 18.8%	13 35.1%	30.0%
	短時間社員制導入	26 38.8%	22 31.4%	36 45.0%	6 37.5%	14 37.8%	38.5%
	ワーカー・ニート就業支援	10 14.9%	11 15.7%	10 12.5%	0 0.0%	6 16.2%	13.7%
	女性再就職支援	39 58.2%	33 47.1%	38 47.5%	10 62.5%	22 59.5%	52.6%
	男性育休取得促進	19 28.4%	15 21.4%	32 40.0%	7 43.8%	12 32.4%	31.5%
その他	4 6.0%	0 0.0%	3 3.8%	1 6.3%	1 2.7%	3.3%	
教育	大学学費本人負担	18 26.9%	17 24.3%	20 25.0%	4 25.0%	6 16.2%	24.1%
	奨学金制度充実	40 59.7%	30 42.9%	47 58.8%	11 68.8%	21 56.8%	55.2%
	子育て理解教育	26 38.8%	40 57.1%	35 43.8%	3 18.8%	15 40.5%	44.1%
	乳幼児とのふれあい	16 23.9%	19 27.1%	25 31.3%	2 12.5%	17 45.9%	29.3%
	男女共同参画教育	29 43.3%	30 42.9%	50 62.5%	8 50.0%	13 35.1%	30.0%
	性・妊娠出産教育	23 34.3%	32 45.7%	22 27.5%	0 0.0%	10 27.0%	32.2%
	人口学教育	15 22.4%	10 14.3%	5 6.3%	2 12.5%	2 5.4%	12.6%
その他	4 6.0%	2 2.9%	3 3.8%	2 12.5%	1 2.7%	4.4%	
税・社会保障	103万円の壁	31 46.3%	33 47.1%	41 51.3%	10 62.5%	16 43.2%	43.5%
	130万円の壁	28 41.8%	31 44.3%	40 50.0%	8 50.0%	16 43.2%	45.6%
	育児保険創設	20 29.9%	28 40.0%	35 43.8%	4 25.0%	13 35.1%	37.0%
	N分N乗方式導入	16 23.9%	2 2.9%	7 8.8%	2 12.5%	3 8.1%	11.1%
	ファミリー企業優遇税制	22 32.8%	22 31.4%	34 42.5%	2 12.5%	14 37.8%	34.8%
	乳幼児医療費無料化	36 53.7%	41 58.6%	41 51.3%	5 31.3%	20 54.1%	53.0%
	独身税創設	11 16.4%	17 24.3%	8 10.0%	1 6.3%	8 21.6%	16.7%
	公営住宅充実	9 13.4%	13 18.6%	16 20.0%	4 25.0%	6 16.2%	17.8%
その他	2 3.0%	1 1.4%	1 1.3%	1 6.3%	1 2.7%	2.2%	

※ 色分けの内訳 最大 2番目 3番目

■ 参考資料 ※ ( ) 内は第2回調査において第1回も回答したサンプルのみの値

2010年合計出生率予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	93	67 ( 58 )	78	67 ( 40 )	125	77 ( 60 )	33	16 ( 14 )	46	37 ( 26 )
欠損値	1	0 ( 0 )	3	3 ( 3 )	8	3 ( 1 )	0	0 ( 0 )	2	0 ( 0 )
平均	1.23	1.23 ( 1.23 )	1.23	1.22 ( 1.21 )	1.23	1.24 ( 1.25 )	1.22	1.24 ( 1.24 )	1.23	1.23 ( 1.22 )
中央値	1.23	1.23 ( 1.23 )	1.25	1.23 ( 1.23 )	1.24	1.24 ( 1.25 )	1.25	1.24 ( 1.25 )	1.25	1.23 ( 1.23 )
標準偏差	0.08	0.06 ( 0.06 )	0.07	0.06 ( 0.07 )	0.09	0.07 ( 0.08 )	0.07	0.04 ( 0.04 )	0.08	0.04 ( 0.04 )
最小値	1.00	1.00 ( 1.00 )	1.00	1.00 ( 1.00 )	0.90	1.10 ( 1.10 )	1.00	1.20 ( 1.20 )	1.00	1.10 ( 1.10 )
最大値	1.60	1.40 ( 1.40 )	1.50	1.30 ( 1.30 )	1.80	1.80 ( 1.80 )	1.30	1.30 ( 1.30 )	1.45	1.30 ( 1.30 )

2025年合計出生率予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	93	67 ( 58 )	77	67 ( 40 )	124	77 ( 60 )	32	16 ( 14 )	45	37 ( 26 )
欠損値	1	0 ( 0 )	4	3 ( 3 )	9	3 ( 1 )	1	0 ( 0 )	3	0 ( 0 )
平均	1.24	1.24 ( 1.23 )	1.22	1.21 ( 1.21 )	1.19	1.21 ( 1.22 )	1.24	1.23 ( 1.24 )	1.24	1.23 ( 1.22 )
中央値	1.20	1.22 ( 1.20 )	1.20	1.21 ( 1.21 )	1.20	1.21 ( 1.21 )	1.25	1.23 ( 1.23 )	1.20	1.22 ( 1.22 )
標準偏差	0.16	0.11 ( 0.11 )	0.16	0.11 ( 0.12 )	0.13	0.10 ( 0.10 )	0.14	0.08 ( 0.07 )	0.20	0.10 ( 0.09 )
最小値	0.80	0.98 ( 0.98 )	0.70	1.00 ( 1.00 )	0.90	0.80 ( 0.80 )	0.95	1.10 ( 1.10 )	1.00	1.00 ( 1.00 )
最大値	1.80	1.65 ( 1.65 )	2.00	1.60 ( 1.60 )	1.80	1.60 ( 1.60 )	1.60	1.40 ( 1.40 )	1.90	1.50 ( 1.50 )

2050年合計出生率予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	91	67 ( 58 )	77	67 ( 40 )	118	77 ( 60 )	32	16 ( 14 )	45	37 ( 26 )
欠損値	3	0 ( 0 )	2	3 ( 3 )	15	3 ( 1 )	1	0 ( 0 )	3	0 ( 0 )
平均	1.29	1.28 ( 1.26 )	1.23	1.25 ( 1.26 )	1.19	1.24 ( 1.23 )	1.31	1.25 ( 1.26 )	1.26	1.25 ( 1.22 )
中央値	1.25	1.24 ( 1.24 )	1.20	1.22 ( 1.23 )	1.20	1.2 ( 1.22 )	1.30	1.25 ( 1.25 )	1.20	1.24 ( 1.22 )
標準偏差	0.28	0.21 ( 0.21 )	0.23	0.23 ( 0.26 )	0.21	0.13 ( 0.13 )	0.24	0.17 ( 0.16 )	0.30	0.15 ( 0.12 )
最小値	0.70	0.90 ( 0.90 )	0.50	0.95 ( 0.95 )	0.45	1.00 ( 1.00 )	0.95	0.90 ( 0.90 )	0.80	1.00 ( 1.00 )
最大値	2.10	2.10 ( 2.10 )	2.00	2.10 ( 2.10 )	2.00	1.70 ( 1.70 )	1.90	1.50 ( 1.50 )	2.10	1.70 ( 1.50 )

2025年男性平均寿命予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	94	67 ( 58 )	79	67 ( 40 )	124	77 ( 60 )	33	16 ( 14 )	46	37 ( 26 )
欠損値	0	0 ( 0 )	2	3 ( 3 )	9	3 ( 1 )	0	0 ( 0 )	2	0 ( 0 )
平均	80.0	79.9 ( 79.8 )	79.2	79.2 ( 79.2 )	79.1	79.4 ( 79.4 )	79.6	79.8 ( 79.9 )	79.3	78.8 ( 79.2 )
中央値	80.0	80.0 ( 80.0 )	79.2	79.5 ( 80.0 )	79.8	79.5 ( 79.7 )	80.0	80.0 ( 80.0 )	80.0	79.5 ( 79.7 )
標準偏差	1.93	2.11 ( 1.74 )	2.35	2.16 ( 2.01 )	2.38	1.43 ( 1.28 )	2.15	1.36 ( 1.33 )	2.58	2.64 ( 1.42 )
最小値	75.0	75.0 ( 75.0 )	70.0	75.0 ( 75.0 )	70.0	75.0 ( 76.0 )	74.0	78.0 ( 78.0 )	73.0	65.0 ( 75.0 )
最大値	85.0	90.0 ( 85.0 )	88.0	88.0 ( 86.0 )	88.0	85.0 ( 83.8 )	85.0	84.0 ( 84.0 )	85.0	81.0 ( 81.0 )

2050年男性平均寿命予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	93	67 ( 58 )	77	67 ( 40 )	123	77 ( 60 )	32	16 ( 14 )	45	37 ( 26 )
欠損値	1	0 ( 0 )	4	3 ( 3 )	10	3 ( 1 )	1	0 ( 0 )	3	0 ( 0 )
平均	81.5	81.1 ( 81.0 )	79.6	79.7 ( 79.3 )	79.6	80.1 ( 80.2 )	81.0	81.1 ( 81.4 )	79.6	79.7 ( 80.0 )
中央値	81.0	80.5 ( 80.5 )	80.0	80.0 ( 80.0 )	80.0	80.0 ( 80.0 )	81.5	80.8 ( 80.8 )	80.0	80.0 ( 80.0 )
標準偏差	4.41	4.07 ( 3.88 )	4.62	3.72 ( 3.70 )	4.45	3.15 ( 3.22 )	4.48	4.58 ( 4.68 )	5.03	5.41 ( 3.89 )
最小値	70.0	70.0 ( 70.0 )	65.0	70.0 ( 70.0 )	65.0	67.0 ( 67.0 )	70.0	74.0 ( 74.0 )	70.0	55.0 ( 70.0 )
最大値	95.0	95.0 ( 95.0 )	90.0	90.0 ( 90.0 )	100	88.0 ( 86.3 )	90.6	94.5 ( 94.5 )	90.0	90.0 ( 90.0 )

## 2025年女性平均寿命予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	94	67 ( 58 )	79	67 ( 40 )	124	76 ( 59 )	33	16 ( 14 )	46	37 ( 26 )
欠損値	0	0 ( 0 )	2	3 ( 3 )	9	4 ( 2 )	0	0 ( 0 )	2	0 ( 0 )
平均	87.2	86.7 ( 86.8 )	86.1	85.7 ( 85.5 )	85.9	86.1 ( 86.2 )	86.5	86.3 ( 86.4 )	86.2	85.7 ( 86.1 )
中央値	87.0	87.0 ( 87.0 )	87.0	86.0 ( 86.0 )	86.0	86.0 ( 86.0 )	87.0	86.0 ( 86.0 )	87.0	86.0 ( 86.0 )
標準偏差	2.01	2.18 ( 1.84 )	2.80	2.34 ( 2.05 )	2.99	1.99 ( 1.74 )	2.37	2.28 ( 2.41 )	2.48	3.42 ( 1.76 )
最小値	80.0	78.0 ( 78.0 )	72.0	78.0 ( 78.0 )	70.0	80.0 ( 80.0 )	80.0	80.0 ( 80.0 )	80.0	68.0 ( 80.3 )
最大値	92.0	95.0 ( 90.0 )	91.0	92.0 ( 90.0 )	93.0	92.0 ( 90.0 )	90.6	90.0 ( 90.0 )	90.0	90.0 ( 90.0 )

## 2050年女性平均寿命予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	93	67 ( 58 )	76	67 ( 40 )	123	76 ( 59 )	32	16 ( 14 )	45	37 ( 26 )
欠損値	1	0 ( 0 )	5	3 ( 3 )	10	4 ( 2 )	1	0 ( 0 )	3	0 ( 0 )
平均	88.4	87.7 ( 87.8 )	86.6	85.9 ( 85.7 )	86.2	86.5 ( 86.6 )	87.0	88.1 ( 88.3 )	86.4	86.3 ( 86.8 )
中央値	89.0	87.5 ( 87.7 )	87.2	86.5 ( 86.0 )	86.5	87.0 ( 87.0 )	87.0	87.5 ( 87.5 )	88.0	86.8 ( 86.7 )
標準偏差	4.33	4.28 ( 4.28 )	5.42	3.96 ( 3.82 )	4.77	3.09 ( 3.13 )	5.07	4.55 ( 4.74 )	4.25	5.01 ( 2.38 )
最小値	75.0	75.0 ( 75.0 )	67.0	75.0 ( 75.0 )	75.0	80.0 ( 80.0 )	75.0	80.0 ( 80.0 )	75.0	60.0 ( 83.0 )
最大値	105	105 ( 105 )	100	95.0 ( 95.0 )	110	95.0 ( 95.0 )	105	100 ( 100 )	95.0	93.0 ( 92.0 )

## 2025年男性生涯未婚率予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	91	67 ( 58 )	78	67 ( 40 )	123	77 ( 60 )	33	16 ( 14 )	45	37 ( 26 )
欠損値	3	0 ( 0 )	3	3 ( 3 )	10	3 ( 1 )	0	0 ( 0 )	3	0 ( 0 )
平均	17.1	17.4 ( 16.9 )	15.0	16.4 ( 16.5 )	16.0	16.2 ( 16.1 )	16.3	18.1 ( 17.8 )	16.4	16.2 ( 15.9 )
中央値	15.0	16.5 ( 16.1 )	15.0	16.0 ( 16.0 )	15.0	15.0 ( 15.0 )	15.0	16.5 ( 16.0 )	15.0	15.0 ( 15.0 )
標準偏差	4.36	3.70 ( 3.11 )	2.77	2.82 ( 3.28 )	3.56	2.19 ( 2.22 )	4.00	4.40 ( 4.66 )	4.30	3.19 ( 3.47 )
最小値	10.0	10.0 ( 10.0 )	9.0	10.0 ( 10.0 )	10.0	10.0 ( 10.0 )	10.0	14.0 ( 14.0 )	10.0	6.0 ( 6.0 )
最大値	30.0	30.0 ( 25.0 )	25.0	25.0 ( 25.0 )	35.0	20.0 ( 20.0 )	30.0	30.0 ( 30.0 )	30.0	25.0 ( 25.0 )

## 2050年男性生涯未婚率予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	90	67 ( 58 )	78	67 ( 40 )	121	77 ( 60 )	32	16 ( 14 )	45	37 ( 26 )
欠損値	4	0 ( 0 )	3	3 ( 3 )	12	3 ( 1 )	1	0 ( 0 )	3	0 ( 0 )
平均	20.5	20.0 ( 19.8 )	16.7	18.6 ( 19.2 )	18.6	18.4 ( 18.6 )	18.6	21.3 ( 21.2 )	19.2	18.4 ( 18.6 )
中央値	20.0	20.0 ( 20.0 )	15.0	18.0 ( 20.0 )	18.0	18.0 ( 18.0 )	17.0	19.5 ( 19.5 )	20.0	18.0 ( 18.0 )
標準偏差	7.81	4.84 ( 4.46 )	4.47	4.87 ( 5.80 )	6.05	4.69 ( 5.06 )	5.93	8.00 ( 8.49 )	5.63	5.46 ( 6.00 )
最小値	10.0	10.0 ( 10.0 )	10.0	8.0 ( 8.0 )	7.0	10.0 ( 10.0 )	10.0	14.0 ( 14.0 )	7.0	7.0 ( 7.0 )
最大値	50.0	30.0 ( 30.0 )	35.0	30.0 ( 30.0 )	45.0	45.0 ( 45.0 )	30.0	45.0 ( 45.0 )	40.0	35.0 ( 35.0 )

## 2025年女性生涯未婚率予測値

調査回	人口学		医学・公衆衛生学		社会学・文化人類学		経済学		その他	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
N	91	67 ( 58 )	79	67 ( 40 )	123	76 ( 59 )	33	16 ( 14 )	45	37 ( 26 )
欠損値	3	0 ( 0 )	2	3 ( 3 )	10	4 ( 2 )	0	0 ( 0 )	3	0 ( 0 )
平均	10.5	11.9 ( 11.6 )	8.4	11.0 ( 10.9 )	9.0	10.1 ( 9.8 )	9.5	12.4 ( 12.5 )	9.5	10.9 ( 11.0 )
中央値	10.0	10.0 ( 10.0 )	8.0	10.0 ( 10.0 )	8.0	10.0 ( 10.0 )	8.0	10.5 ( 10.0 )	8.0	10.0 ( 10.0 )
標準偏差	4.53	4.49 ( 3.96 )	2.67	4.01 ( 3.76 )	3.53	2.63 ( 2.05 )	3.82	4.45 ( 4.77 )	4.73	3.88 ( 4.06 )
最小値	5.0	5.9 ( 5.90 )	5.0	5.0 ( 5.00 )	4.0	5.5 ( 6.00 )	4.0	7.0 ( 7.00 )	5.0	6.0 ( 6.00 )
最大値	25.0	30.0 ( 20.0 )	20.0	25.0 ( 25.0 )	30.0	20.0 ( 15.0 )	20.0	25.0 ( 25.0 )	30.0	21.0 ( 21.0 )